

れいわ ねん がつ にち
令和8年3月12日

がっこう かてい ちいき
★学校と家庭、地域をつなぐ・・・

忍ヶ丘小学校HP
につながります。



しのぶしょう つうしん

忍小★通信

No.18 (3月号)

しのぶがおかしょうがっこうちょう うえいだいすけ
忍ヶ丘小学校長 上井大介

★暇中校区の合言葉 3つの「るるる」

・ねばーる(自分と向き合う力) ・やってみーる(自分を高める力) ・つながーる(他者とつながる力)

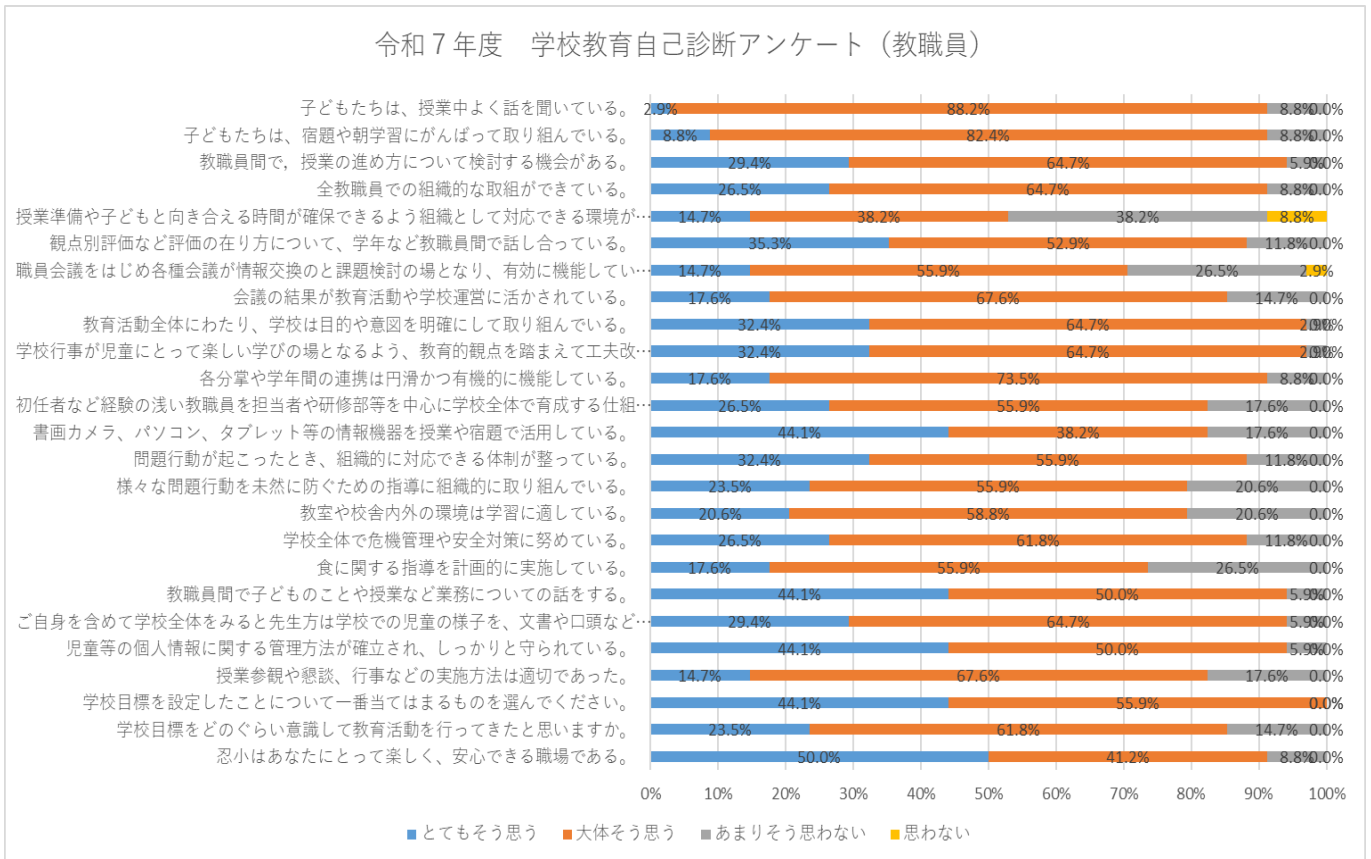
★令和7年度【学校教育目標】

「みんなでつくる楽しい忍小」 ・挑戦しよう! ・つながろう! ・学び続けよう!

令和7年度 忍ヶ丘小学校学校教育自己診断アンケートの結果

令和8年1月16日(金)～1月22日(木)に、教職員・児童・保護者対象に、学校教育自己診断アンケートを実施しました。その結果を以下のとおり報告します。皆さん、ご協力いただき、ありがとうございました。

【1 教職員】



教職員間でのコミュニケーションや組織的な対応に高い自己評価が見られる一方、業務環境の確保が大きな課題となっています。

けんちよ こうもく
【顕著な項目】

けんちよ たかいこうもく
◆顕著に高い項目◆

- きょういっかつどう いとめいかくか もくてき いとめいかく とりくみ こうていかいどう
・教育活動の意図明確化: 目的や意図を明確にした取組 (肯定回答97.1%)
- ぎょうじ きょういっくてきふう じどう たの まな ぎょうじ
・行事の教育的工夫: 児童が楽しく学べる行事の工夫改善 (肯定回答 97.1%)
- どうりようせい きょうしよくいんかん じどう ぎょうむ かん たいわ こうていかいどう
・同僚性: 教職員間での児童や業務に関する対話 (肯定回答94.1%)

けんちよ ひく こうもく
◆顕著に低い項目◆

- じかん かくほ じゅぎょうじゆんび こ む あ じかん かくほ こうていかいどう おも 88%
・時間の確保: 授業準備や子どもと向き合える時間の確保 (肯定回答52.9%、「思わない」8.8%)
- かいぎ ゆうこうせい かいぎ かいだいけんどう ば きょう たいわ こうていかいどう おも
・会議の有効性: 会議が課題検討の場として機能しているか (肯定回答70.6%、「思わない」2.9%)

せいか
【成果】

「みんなでつくる楽しい 忍小」という学校目標が、全教職員に自分事として深く浸透していると考えます。特筆すべきは教職員間のコミュニケーションの質の高さであり、日頃から子どもたちの情報や授業について対話する土壌があり、組織的な対応力に繋がっています。行事に対する意欲も高く、教育的価値を追求する姿勢が一致していると感じています。

そしきてき れんけい しょくばかんきょう
①組織的な連携と職場環境

「忍小は楽しく、安心できる職場である」という回答が91.2%に達しており、教職員間の会話や個人情報管理、学校目標の共有についても非常に高い肯定率(94%~100%)を示しています。

いっかつどう いとてきとりくみ
②教育活動への意図的取組

学校行事の工夫改善や学校全体での目的意識を持った取組が97.1%と極めて高く評価されています。

かだい
【課題】

組織としてのまとまりが強い一方で、「教職員の多忙感」が顕著な課題として浮き彫りになっています。特に「子どもと向き合える時間の確保」に満足している層が約半数に留まっている点は、教育の質や教職員のメンタルヘルスに関わる深刻なサインです。また、会議が情報共有に偏り、深い課題検討にまで至っていないと感じる層が3割弱存在します。

じかんてき ふそく
①時間的ゆとりの不足

「授業準備や子どもと向き合える時間が確保できる環境」への肯定回答は52.9%に留まり、約半数が不十分さを感じています。

かいぎ ゆうこうせい
②会議の有効性

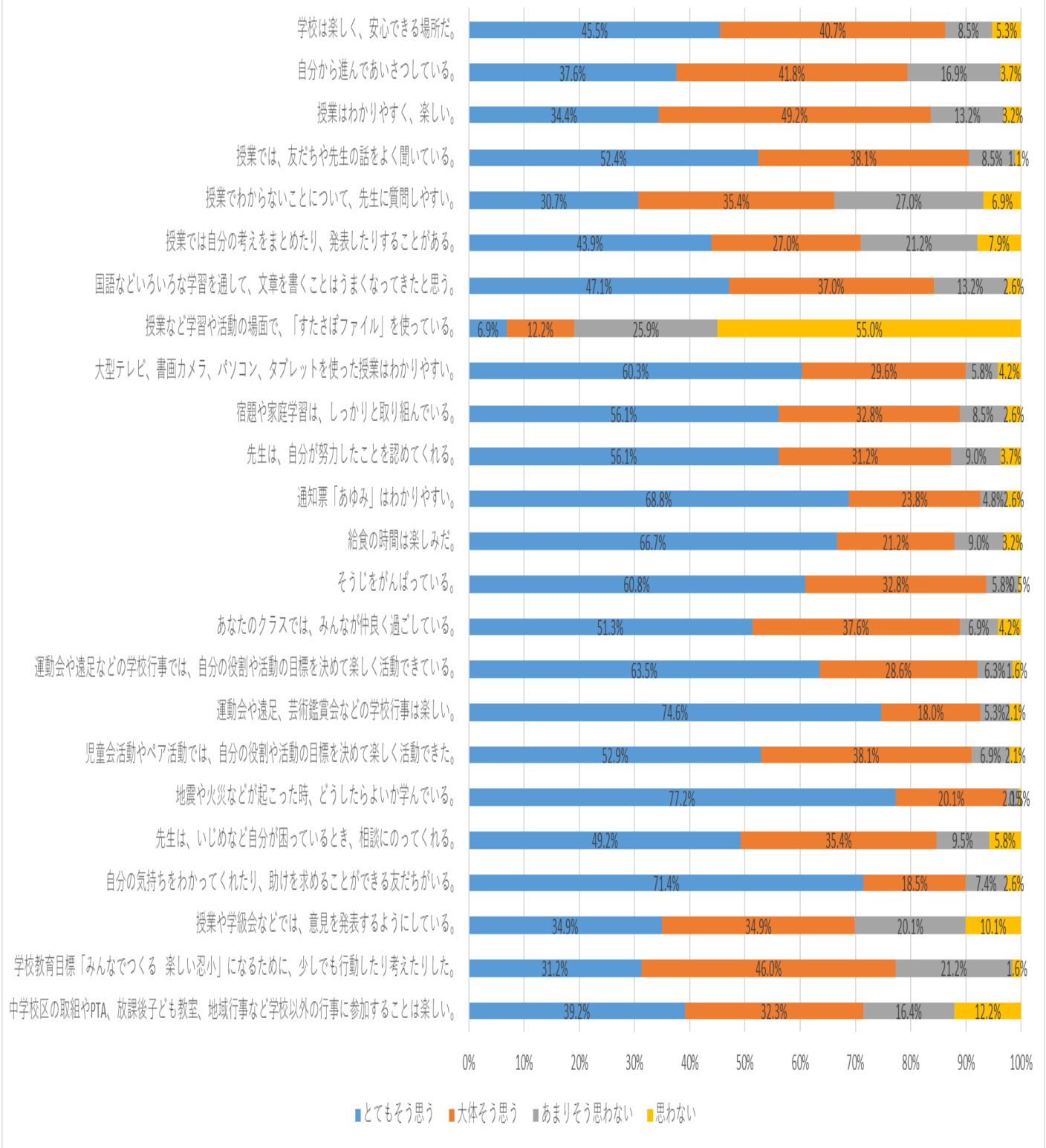
各種会議が課題検討の場として有効に機能していると感じる割合は70.6%で、他の項目に比べると改善の余地があると考えています。

こんご たいさくどう
【今後の対策等】

教職員の専門性を発揮させるため、事務的な作業の徹底した削減 (ICT活用による通知・共有のデジタル化) をより有効活用したいと思えます。会議については、時間短縮を図ることで、放課後の教材研究や児童との対話時間を捻出する取組を進めたいと思えます。



令和7年度学校教育自己診断アンケート（児童）



あんぜん ぼうさいいしき ひじょう たか ぎょうじ とも かんけい りょうこう がくしゅうめん しゅたいてき はっしん つー る かつよう
安全・防災意識が非常に高く、行事や友だちとの関係も良好ですが、学習面での主体的な発信やツールの活用に課題がある結果となりました。

【顕著な項目】

◆顕著に高い項目◆

- ・防災意識: 地震や火災時の行動学習 (肯定回答97.4%)
- ・生活習慣: 掃除をがんばっている (肯定回答93.7%)
- ・行事・通知票: 学校行事の楽しさ (92.6%)、通知票のわかりやすさ (92.6%)。

◆顕著に低い項目◆

- ・ツールの活用: 「すたさばファイル」の使用 (肯定回答19.0%、「思わない」が55.0%と過半数)
- ・質問のしやすさ: 授業でわからないことを質問しやすいか (肯定回答66.1%、「思わない」計33.9%)
- ・意見発信: 授業や学級会での意見発表 (肯定回答69.8%、「思わない」計30.2%)。

【成果】

防災に関する意識が極めて高く浸透し、いざという時の行動が全児童に根付いている結果となりました。また、清掃活動に一生懸命取り組む姿勢からは、学校を大切にすることが育っていることが伺えます。通知票「あゆみ」への理解度も高く、自分自身の評価を前向きに受け止めています。

①防災・安全意識

地震や火災時の行動について学んでいるという回答は97.4%と全項目で最高でした。

②学校行事と人間関係

行事の楽しさ(92.6%)やクラスの仲の良さ(88.9%)、助け合える友だちの存在(89.9%)など、対人関係の充実が見取れます。

③ICT活用の理解

先生が使う大型テレビやタブレットを使った授業を「わかりやすい」と感じる児童は89.9%に上ります。

【課題】

学習面において「受け身」の姿勢が見受けられます。特に、わからないことを質問したり、自分の考えを全般で発表したりすることに抵抗感を持つ児童が3割程度います。また、「すたさばファイル」については、活用している児童が極端に少なく、指導計画やツール自体の妥当性の改善があると感じます。

①特定ツールの活用不足

「すたさばファイル」を使っている児童は19.0%に留まっており、活用状況が浸透していない現状が浮き彫りになりました。

②主体的な発信と質問

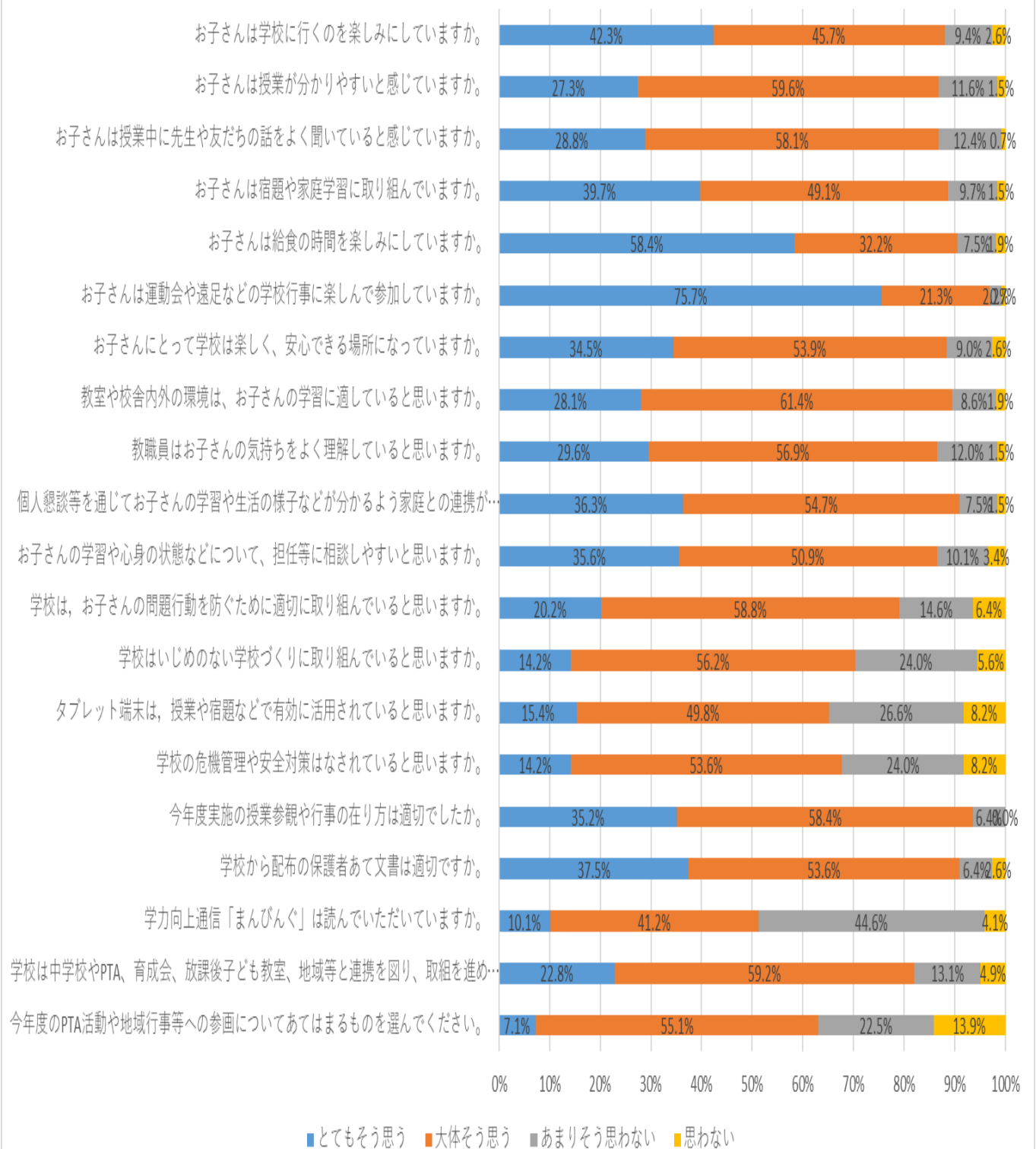
先生への質問のしやすさ(66.1%)や、意見の発表(69.8%)は、他の項目に比べて肯定率が低く、より子どもたちが安心して質問したり発言したりできる気持ちや環境へと進めたいと思います。

【今後の対策等】

まずは学習ツールについて活用目的を再検討し、より使いやすいツールへの検討を進めます。授業での発表や意見については、いきなり全体の前で発表するのではなく、ペアワークやタブレットの機能等を活用し、誰でも「アウトプット」できる成功体験を積み、主体的な学びへとつなげる取組を進めてまいります。



令和7年度 学校教育自己診断アンケート（保護者）



学校行事や家庭との連携には満足度が高い反面、ICT活用や安全対策・いじめ防止への取組には不安や疑問が残る結果となりました。

【顕著な項目】

◆顕著に高い項目◆

- ・行事満足度: 運動会や遠足などの学校行事への参加 (肯定回答97.0%)
- ・参観等方法の適切さ: 授業参観や行事の実施方法 (肯定回答93.6%)

◆顕著に低い項目◆

- ・学力通信: 「まなびんぐ」の精読状況 (肯定回答51.3%、「あまり思わない・思わない」計48.7%)
- ・タブレット活用: 授業や宿題での有効活用 (肯定回答65.2%、「あまり思わない・思わない」計34.8%)

【成果】

学校行事や対面での懇談を通じ、学校の活気や教職員の姿勢を肯定的に捉えていただいている結果となりました。これは、学校が「開かれた環境」を維持し、家庭との信頼関係を丁寧に構築してきた結果と捉えています。

①学校行事への満足度

運動会や遠足などの行事を楽しんでいると感じる保護者は97.0%に達しています。

②家庭との連携

個人懇談等を通じた連携(91.0%)や、文書の適切さ(91.0%)など、学校からの情報発信・対話は概ね良好と考えています。

③基本的な学校生活

給食(90.6%)や登校の楽しみ(88.0%)など、子どもの日常的な意欲については高く評価していただきました。

【課題】

学力向上通信「まなびんぐ」を読んでいる割合が低いことは、学校の学習指導方針が家庭に浸透しきっていないとも考えます。また、タブレット活用や安全対策に対して3割以上の保護者が不十分さを感じており、活用の成果等の可視化が必要と考えます。

①学力向上通信の認知・精読

「まなびんぐ」を読んでいる保護者は51.3%と約半数に留まり、低い肯定率となっています。

②安全・いじめ対策への不安

「いじめのない学校づくり(70.4%)」や「危機管理・安全対策(67.8%)」は、教職員の自己評価に比べて保護者の肯定率が低い結果となりました。学校において大きな課題のひとつと認識しています。

③ICT活用の実感

タブレット端末の有効活用について65.2%の肯定率で、家庭からは教育効果が見えにくい状況が推察されます。

【今後の対策等】

「まなびんぐ」について、学校の取組や子どもたちのがんばりをより一層紹介することに加えて、内容を精選し短時間で読めるなど、工夫してまいります。また、タブレットを用いた授業の参観や、危機管理等の取組の様子を発信することで、ご家庭に安心感と期待感を届ける取組を進めてまいります。

今回のアンケート結果を踏まえて、より一層子どもたちが安全で安心できる学校づくりに向けて環境整備に努めてまいります。引き続き、ご理解とご協力をお願いいたします。

